

東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2024 年 vol.3 (2024.8)

第 75 回全国七大学対校陸上競技大会 兼 第 35 回全国七大学対校女子陸上競技大会

(in 豊橋市陸上競技場)

- ・ 対抗男子総合 2 位、対抗女子総合 3 位
- ・ 菅田理乃 (4) が女子 400m、女子 800m で二冠達成
- ・ 渡邊優典 (2) が男子 800m で優勝
- ・ 島村惟葵 (3) が男子棒高跳で二連覇
- ・ 男子フィールド、2 位に 20.5 点差をつけて圧勝
- ・ 白鳥名花 (1) が 100m 予選、決勝で大会新記録 (予選: 12.14 (+1.3m) 決勝: 12.12 (+2.0m))

- 第 75 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 35 回全国七大学対校女子陸上競技大会
-----2~16 ページ
- 自己ベスト更新者一覧
-----17 ページ
- 今後の予定
-----17 ページ
- 編集後記
-----18 ページ



納涼の候、会員の皆様におかれましてはご健勝の趣、何よりと存じます。平素より、私たちの活動を支援していただき、誠にありがとうございます。

今号では、7/28－29 の二日間にかけて行われた第 75 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 35 回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

◎第 75 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 35 回全国七大学対校女子陸上競技大会 (in 豊橋市陸上競技場)

今年の七大戦は、愛知県豊橋市で 7/28－29 の二日間に行われました。対校種目だけでなく、オープン種目も開催され、多くの現役部員や OB の方々にもご参加いただきました。仙台と比較して、かなり暑い厳しい気候の中、部員一同各々の競技や応援に全力を尽くしました。それでは、ここから男女総合結果及び主将、女子主将の挨拶と対校戦各選手による選手報告を紹介します。

◆男子総合結果

順位	大学	得点
1位	京都大学	103.5
2位	東北大学	89
3位	大阪大学	71
4位	東京大学	60
5位	九州大学	39
6位	名古屋大学	35.5
7位	北海道大学	22

◆女子総合結果

順位	大学	得点
1位	大阪大学	26
2位	京都大学	25
3位	東北大学	17
4位	北海道大学	17
5位	名古屋大学	13
6位	九州大学	2

◆主将、女子主将より

主将挨拶

東北大学陸上競技部 前主将 西尾陸大

今期主将を務めました、短距離 4 年の西尾陸大です。

今回の七大戦では、男子総合 89 点（短距離 0、ハードル 18、中距離 6、長距離 4、跳躍 35、投擲 33、リレー 6）で総合 2 位。フィールド優勝を収めました。女子は総合 17 点（短距離 9、ハードル 0、中長距離 4、跳躍 0、投擲 2、リレー 2）で総合 3 位でした。男子は、短距離が京大阪大の勢いに敵わず得点が出来ませんでした。しかし、ハードル種目では 110mH、400mH とともに決勝 3 枚残しを実現させチームに勢いをもたらしました。中距離はエース大塚のアクシデントもありましたが 800m で渡邊が他を寄せ付けない圧巻のレースで優勝しました。長距離は下馬評通り東大が蹂躪しましたが、5000m 千葉と 3000mSC 杉山が酷暑の中、大健闘し何とか点数をもぎ取りました。跳躍・投擲は他大学がコンディションを合わせきれない中で見事に活躍しました。6 種目で表彰台、うち 4 種目で優勝。上級生の意地が伝わる試技に加え、それを凌駕する下級生の成長や復活が印象的でした。マイルリレーでは、大会一番の大盛り上がりの中アンカー阿部が満身創痍でありながら怒涛の追い上げでギリギリ表彰台を掴み取りました。

女子は、今大会も 400・800m で 2 冠し、長年チームの柱として活躍してきた菅田に加え、白鳥・臼井のルーキーコンビがトラック種目で健闘し表彰台を掴み取りました。また投擲 PC の平谷が専門外でありながら砲丸で 3 位、4x100mR でも短・中・跳の混合チームでありながら 3 位と表彰台に上りました。

去年の雪辱を晴らしたいと思い一年間準備してきました。まだ各パート課題は残りますが、健闘した選手が想像以上に多く、総合上位入賞は良い結果であると思います。このような結果を OBOG の皆様に報告することができ、一安心しています。私自身 200m・リレー 2 種目で出走する予定だったのですが、直前調整期に左脚を痛めてしまい出場を見送りました。七大戦が始まるまでは憂鬱な気持ちだったのですが、入学して以来一番の七大戦の盛り上がりを感じたり、西くんのために得点してきますとかいって有言実行で得点取ってきてくれた選手が何人もいたり、それでもって総合 2 位という結果を持ってきてくれたりと、終わったころには悔しい気持ちなどどこかに行ってしまいました。思い返せば特に何もしてないけど、報われた気分になりました。

何より嬉しいのが、今大会では下級生の活躍が目立ったことです。これから毎年上位入賞出来る実力と雰囲気がある今のチームにはありますし、そういう雰囲気があれば総合優勝は可能です。次期主将倉部は十種競技を専門とする、周りを信頼し周りから信頼される選手でありリーダーです。チームに対し理解があり、思慮深く思いやりと行動力がある彼なら東北大を常勝軍団へと近づけることが出来ます。コロナ禍以降の下向きな流れは私達で上向きにできたので、彼にはそのままてっぺんまで引っ張っていただきたいと思います。

来年は絶対に優勝するので、より一層の東北大学学友会陸上競技部の応援お待ちしております。

正直前々日に左ハムを損傷し、とても痛かった。鍛え抜かれた剛体、泉整骨院も驚きの入念なケアを以てしても、燦燦と滾るパワーと精緻な走技術に筋肉が追い付かず。東北大学の秘密兵器は、秘密のまま終わることとなった。

2組2着 室田竜磨(2) 22"27 (-0.27)

着順で決勝に上がることだけを意識した。3位の人の位置を見ながら直線は力まず走れた。

3組6着 神近凜太郎(2) 23"45 (-1.0)

熱中症になり持っている力を発揮できなかった。暑さ対策をしたつもりが足りなかった。

男子 200m 決勝

7位 室田竜磨(2) 22"23(+1.1)

怪我により走連を積めてなく終始脚が重かった。カーブあけでスピードが乗っておらず周りに置いていかれてしまい完全な実力不足を感じた。来年こそは表彰台を狙えるように練習を積んでいきたい。

男子 400m 予選

1組7着 大村将伸(3) 50"84

資格記録的に厳しい戦いになると予想できたため、前半から突っ込んで200mを通過した。しかしオーバースピードと暑さで後半耐えることができず7位でゴール。実力不足を実感した大会になった。

2組4着 菅野涼太(3) 49"60

前半スピードに乗って100m時点で外レーンを抜かした。しかし暑さや向かい風によって後半伸びず、前3人にズルズルと離され4着でフィニッシュ。練習の成果を発揮できず悔しい結果となった。

3組7着 長田悠希(2) 54"52

痛みが出て最後まできちんと走り切ることができず、悔しい結果となった。練習を重ねて、結果を残せるよう頑張ります。

男子 800m 予選

1組3着 錦戸昴雅(2) 2'00"04

序盤3~4番手に着き、仕掛けどころを伺いながら550mまで進む。550m地点でペースアップについて行き、2番手で直線に入るもゴール30m手前で交わされ3番手でゴール。

2組1着 渡邊優典(2) 1'56"31

1位で一周目を通過して間もなく一瞬2位に後退するもすぐに巻き返してその勢いで二周目を走る。ラスト、後続を確認しながら余裕を持ってゴール。

3組1着 大塚光陽(4) 1'55"42

スタートして集団の後方につく。200mを7番手で通過。徐々に順位を上げていき、600mは三番手で通過。その後残り150mからスパートをし余裕をもって1着でゴール。

男子 800m 決勝

1位 渡邊優典(2) 1'55"13

一周目を大塚さんに引いてもらい、余裕を持って一周目を通過。そのまま後続との差を保ってゴール。

8位 大塚光陽(4) 2'13"90

スタートして先頭を走る。300mで東北大の選手に先頭を譲る。その後全員に抜かれてゴール。



ラストの直線で先頭を走る渡邊（2）

男子 1500m決勝

10位 日引英舜(2) 4'03"79

スタートは集団の後方に位置取り、700m 過ぎでラストパートに備えて集団の前方に位置取りを変える。その後ラスト1周の急激なペースアップにつききれず10着でゴール。

11位 北嶋僚大(2) 4'04"20

スタートで出遅れてしまい、後方でレースを進めた。全体的にスローな展開から1000m 通過以降ペースアップし、自分自身もペースアップして行き、数人抜かして11着でフィニッシュ。

17位 縣 昌幸(1) 4'08"66

大学生になって2回目の1500で緊張もあったがPBを大幅に更新したいと思って走ったが、スローペースからの急激なペースアップに対応できず、PB タイでフィニッシュ。

男子 3000SC 決勝

14位 小林由輝(4) 10'07"70

スタート後第二集団後方に着き、入賞を狙える位置でレースを進めるが、1000m を過ぎたあたりから大きく集団から離れた。終盤までペースは維持したが、中盤の遅れを取り戻せずそのままゴール。

16位 鈴木拓真(2) 10'14"07

9分台を目標として調整でも調子を上げていけた体感があったものの、本番は体が思うように動かず、タイムとしても目標からは程遠いものとなってしまった。レース展開にしても自力にしても現状対校戦で戦ううえでの力不足を痛感した。これからトラックを少し離れ、駅伝シーズンに入るがそこでレースの基礎ともなる地力をつけていきたい。

4位 杉山大輔(3) 9'27"94

感覚が良くなかったため序盤は先頭に付かず自分のペースで進めた。500mくらい進んでから感覚が良くなったため順位を意識して前を追った。少しずつ前の選手を抜いて行き、2000m手前で3位集団に追いついた。最後の一周で選手が一人抜け出したためその選手について行った。最後の一周を2'45/kmまであげたが追い抜くことができずにそのまま4位でゴール。順位を意識したレースでPBを更新できたのはよかった。

ラストで魂の走りを見せた杉山(3)



男子 5000m決勝

6位 千葉航太(3) 15'17"29

スタートしてすぐに東大の選手が飛び出し、それ以降は牽制した形になった。前半スローの展開は不利だと考え、覚悟を決めて2位集団を引っ張った。4000mぐらいまで引っ張りラスト2周で他大学3人に前に出て離され、ラスト100mで1人にスパート勝負で負けて6位でゴールした。入賞ラインまでは資格記録でかなり差があったが、攻めたレースで点をもぎ取れてよかった。しかし上位の5人とはかなり力の差を感じたので、また1年練習を積んで来年は表彰台を狙いたい。

14位 照内優允(2) 16'02"63

スタート直後から先頭から離れた2位集団につく形になった。その集団のペースにつくことができず、粘りきれずにゴールする形になってしまった。7月は思うように練習が積めていなかったため、相応のレースだった。状態が良ければ、入賞も見えてくる結果だったので非常に悔しい。来年またリベンジしたい。

15位 松本修哉(2) 16'08"54

最初の1kmから足が重く、そこから立て直すことができなかった。コンディションの調整不足を感じる不甲斐ないレースとなってしまった。暑い中でも安定して結果を出せるよう、これから練習をもっと頑張っていきたい。



先頭を引く千葉(3)

男子 110mH予選

1組2着 西里碧澄(3) 15"12(+3.0)

資格記録が近く混戦が予想される中、やや遅れたスタートになった。ハードルに足をぶつけ焦ったが、中盤以降は先頭を走る選手がミスを連発したため追いつくことができた。着順を取れば良かったので、最後は落ち着いて周りを確認できるほどの余裕を持ちながらゴールした。

2組1着 長井颯馬(1) 15"16(+1.3)

1台目に思いっきりぶつかってしまい、そのまま2台目もぶつかり、転倒しそうになったが3台目以降はしっかりと飛び切り1着でゴール。追い風が吹いていたのでアプローチが詰まってしまった。

3組1着 鍵山弘樹(1) 15"64 (+1.4)

コンディションは良いもののハードルの動きに不安もある中臨んだ。しかし、競ると予想された選手が失格となり、余裕が生まれたのでやりたいことを試すことができた。レースは余裕の1着で感触も上々だった。

男子 110mH決勝

1位 長井颯馬(1) 14"77(+1.1)

予選で課題だったアプローチを改善することができ、予選よりは上手く1台目に入ることが出来た。その勢いのまま2台目以降もしっかりと走り切り1着でゴール。PBタイを出せて、優勝することもできたが課題も見つかったので、これから更にタイムを伸ばして来年も優勝したいと思う。

3位 西里碧澄(3) 15"05(+1.1)

今までで一番スタートがうまくいき、前半は先頭争いをすることができた。後半少し遅れる形とはなったが、スタートの貯金もあり3位をキープしてゴール。自己ベストを決勝で出せたことは次に繋がる。

8位 鍵山弘樹(1) 26"01 (+1.1)

予選でいい動きができたので決勝で自己ベストを更新&14秒台が出ると確信していた。しかし、猛暑の中レース前の流しで集中力を欠いてしまった。本番では、7歩アプローチに失敗して出遅れて、さらに乗ってきたスピードに対応しきれず、足がもつれて転倒した。結果と点数はついてこなかったが、いいレース、次に繋がるレースだったと思っている。

男子 400mH予選

1組 2着 池谷駿(4) 56"13

風が強く、歩数が合わず、前半からリズムが崩れてしまった。後半もインターバルの歩数が増えてしまい大幅に減速してしまった。着順で決勝に進出したものの、もう少し上手くまとめられたと反省が残るレースだった。

2組 3着 水澤大地(2) 55"94

髪の毛から気合いを入れて臨んだ。前半から積極的に走ったが他大学の選手3人に先行される。10台目で1人越して3着でゴール。

3組 2着 阿部竜胆(3) 55"19

右ハムの怪我により思うようにレースを組み立てられず2台目から逆足に。ホームストレートで順位を上げて2着で通過。

男子 400mH決勝

2位 阿部竜胆(3) 53"80

予選同様2台目から逆足に。なんとか途中で利き足に修正したが、遅れを取り戻せず2着でゴール。PCとして優勝したかったが、出来ずに悔しさの残るレースとなった。

4位 池谷駿(4) 55"09

今回の七大戦では、400mHは予選と決勝が2日間に分かれており、決勝は疲労感なく万全の状態での臨めた。レース中盤で歩数が合わなくなってしまう場面

があったが、辛うじて対応し、後半はそれほど大きな減速もなく走り切ることができた。今できる最大限の走りができたと感じている。

7位 水澤大地(2) 55"84

苦手な内側1レーンからスタート。バックストレート後半で向かい風に煽られ大きく減速。そのままレースを進め7着でゴール。惜しくも得点には届かなかった。



後半力走する阿部(3)

男子 5000mW決勝

8位 田中伊織(3) 23'06"16

レース時は日が陰り、暑さはさほど感じないコンディションだった。序盤は先頭集団に付け、余裕をもってレースを進めた。しかし、2000m手前から徐々に6位との差が開き始め、後方から追いつけてきた選手にかわされていった。終盤はペースダウンし、9位でフィニッシュ。前の選手が失格となり8位となった。昨年よりもタイム・順位ともに落とす結果となってしまった。

10位 山中遼平(2) 23'59"17

目標は6位入賞だったが結果は散々だった。自分より実力が上の選手がかなりいたのでタイム的に入賞は難しいとレースだったがとりあえず前に着いていこうと考えてレースを始めた。最初の1000mまでは余裕を持って先につけていたがその後一気にキツくなってしまいずると先頭から離されていってしまった。最終的に結果を見ると6位入賞のタイム自体は

しっかりと自分のペースでいけていれば出すことができたタイムだったかもしれないので非常に悔しい。今回の七大戦から自分の実力が七大戦の入賞ラインからかけ離れていること痛感したので来年に向けてしっかりと努力して来年は入賞できるように頑張りたい。

男子 4x100mリレー決勝

5 位 42"24 元木(4)―室田(2)―菅野(3)―新田(1)

直前のアクシデントにより、当日に走順を一新して練習をし直すという対応力の試される試合となった。1走で流れを作ることができず下級生に負担をかけてしまった。個人種目の後でも 2,3 走は他大に負けないう走りをして、4 走は急遽出場することになったが 1 年生とは思えない走りで順位を落とすことなく走り切った。結果的に阪大のアクシデントにより 5 位でフィニッシュ。

男子 4x400mリレー決勝

3 位 3'18"98 池谷 (4)―菅野 (3)―渡邊 (2)―阿部 (3)

1 走の池谷は前半大きなストライドで加速するが、後半失速し 6 番手で 2 走へ。2 走の菅野は 400 での悔しさを晴らすかのように加速し、ホームストレートで 4 番手に。3 走の渡邊は 800 の疲れを見せない軽快な走りで前を詰めて 4 番手でアンカーに。4 走の阿部は前を追い、最後に東大を捉えて 0.02 秒差で 3 位に。怪我人を抱えながらも総力戦で戦ったマイルだった。



勝負が決する瞬間 (4走:阿部)

女子 100m予選

1 組 1 着 白鳥名花(1) 12"14 (+1.3)

追い風だったため、自己ベスト更新を狙ってしっかり走った。結果、大会記録を更新できてまさかのことで驚いた。大学初の PB を出せて嬉しかった。

2 組 5 着 加賀谷美結(3) 13"28(+2.5)

久しぶりの直線でのレース。スタート直後に出遅れるが中間地点から伸びを見せる。得意のピッチを使った走りで 4 位との差を縮めようと奮闘するも追いつけずに 5 着でゴール。北大戦から 0.3 秒ほどタイムを縮めることができたが追い風参考により公認記録とはならなかった。

女子 100m決勝

2 位 白鳥名花(1) 12"12 (+2.0)

初めての七大戦で、表彰台に乗ることができてとてもうれしかった。良い風に恵まれて、予選に続いて PB を更新することができた。前半の加速には課題を感じたので、今後の目標ができた。



決勝での白鳥(1)のゴールシーン



女子 800mのスタート直後

女子 400mタイムレース決勝

2組 1着(順位:1位) 菅田理乃(4) 57"11

スタート後、予想通り千晴ちゃんが飛び出したので追いかける。250m 付近で横に並ぶものの余裕はない。気持ちで最後まで走り1着でゴール。

2組 3着(順位:3位) 臼井千晴(1) 58"94

前半はスピードを上げて走ることができた。後半は思うように走ることができず、減速してしまった。

女子 800m 決勝

1位 菅田理乃(4) 2'18"29

スタートからとばし、先頭で1人旅を始める。400m通過を64秒で通過するもバグストレートで向い風を直に受け急減速。その後もうまく切り替えることができず後続に差を縮められる。1着でゴール。

9位 喜多和奏(2) 2'29"11

ハイペースになると予想していたため焦らず記録を狙うことで順位も取ろうとしていたが、最初の400mまでで大人数に抜かされて焦り(いままで14人で800mをやったことがなかったため感覚が狂った)、思うような走りができないまま暑さもあって後半400mで垂れてしまい、9位でゴール。

女子 3000m 決勝

8位 江口真央(2) 10'55"42

終始全体の中盤の位置をキープ。途中数人の集団で走るものの飛び出した一人のペースアップについていけず後半はペースを維持して終わった。

11位 木村瑞葉(4) 11'14"92

スタートから後方でレースを進めたが終盤もペースは上がりきらず11着でゴールした。

女子 100mHタイムレース決勝

1組 3着(順位:8位) 加賀谷美結(3) 17"69 (+2.7)

人生初の100mH。アプローチが詰まってしまい、最初から先頭との差を広げられてしまう。中盤から後半にかけて得意の刻みを生かしたハードルを展開する。しかしゴールまでにその差を縮めることができ、少しの差で3位でフィニッシュ。

2組 4着(順位:9位) 建部亜美(1) 18"90 (+2.7)

スタートから出遅れてしまった。さらに、逆足でのハードリングでロスが生まれてしまい、2台目、3台目...と徐々に離され、4着でフィニッシュ。

12位 倉部彰士(3) 24m07

練習投擲は非常に良かったが、1投目から投げ急いでしまい、体幹で振り切ることができなかった。3投目まで修正できず終了。

男子 ハンマー投げ決勝

1位 富家彬就(4) 39m67

一週間前から2ターン目が安定しない変なクセがついていて不安を覚えながら当日を迎えた。1投目は慎重になりすぎて勢いのない投擲をしたが、3投目でPB更新、さらに5投目でPBを大幅に更新し優勝することができた。40m超えを目標の一つとしていたため悔しさも残るが、去年から始めた競技で自分にできる最高の形で部に貢献することができ本当によかった。

4位 川内蒼馬(4) 32m47

1投目 27m83

6投全て2ターン。

競技直後に本種目のやり投が控えているので、少ない本数で収めるために一投目から記録を狙いにいったが、チップして失敗。

2投目 31m06

チップしないようにハンマーの少し角度を押さえて投げた。

3投目 31m01

ターンスピードをあげようとしたが軸が倒れてしまつて失敗。

4投目 32m47

軸を立てて投げることを意識。

5投目 F

6投目 -

6位 金岡有途(3) 31m09

大幅に自己ベストを更新し、6位で得点を取ることができた。自分でも驚くほどの好投擲だったので良かった。もっと技術をのばし、来年は表彰台を狙いたい。

男子 砲丸投げ決勝

2位 鍵山弘樹(1) 11m04

順位、記録ともに目標以上の結果に終わった。2m弱ほど自己ベストを更新した。本番直前は、先輩に教えて頂いたドリルをやり、試技中は試技ごとに意識するポイントを絞った。それが5本目で自動化され、11mを超えることができた。自他ともに盛り上がったとても楽しく、高揚感のある試合だった。

6位 川内蒼馬(4) 10m07

1投目 9m30

グライドはできないので6投全て立ち投げ。一投目はとりあえず記録を残しにいった。

2投目 F

3投目 9m79

全体的な動きを速くすることを意識して投げた。この時点での順位は6位。

4投目 F

5投目 10m07

全力で投げる事だけを意識した。記録が伸びて4位に浮上。

11位 金岡有途(3) 9m08

ベストを更新すれば得点というところだったが力及ばずだった。来年は特典に絡めるよう、精進していきたい。

男子 走高跳決勝

10位 平山朝日(4) 1m80

七大戦に出場できる最後の年ということもあり、いい記録を出して得点を取りたいと思っていたのですが自己ベストから程遠い記録で、1点も取ることができず申し訳ない気持ちでいっぱいです。来年に向けて1から取り組みを見直し、東北大の走り高跳び選手全体でレベルアップして得点源となれるよう取り組んでいきたいと思います。

11位 大泉宥太(2) 1m80

自己ベスト更新の兆しが見えた試合だった。今後も自分の課題と向き合って練習したい。

NM 藤田想(4)

以前から出ていた左踝付近の痛みが続いており、十分に練習ができていない中での試合だった。1m70から試技を開始したが、1,2本目は足の痛みのせいで力が入らず流れた跳躍となり、失敗した。3本目はそれを修正しようと試みたが、体を十分回転させることができず、バーを落とした。今回の試合は満足に練習ができなかったこともあり、好記録が出る可能性は低いと感じていたが、まさにその通りの結果となってしまった。足への負担が大きいフォームで跳躍しているのは明らかであり、それを直そうと頑張っているものの、今だ大きな改善ができていない。大学院に進んでも陸上を続ける予定なので、腐らずに努力を継続したい。

男子 走幅跳決勝

1位 小南慧馬(2) 6m96 (-0.7)

1本目から3本目にかけては体が十分動ききらず、重心が低いまま潰れた跳躍になってしまった。しかし2本目に余裕をもって決勝に残れる記録を残せたことが良い点であった。4,5本目は重心の低下を修正し高さのある跳躍をすることができたがわずかにファールになってしまった。これは無意識に最後にストライドを伸ばしてしまっていることが原因であり、潜在意識を改善しなければならぬと気づいた。6本目は手拍子のおかげもあり一番助走がよく向かい風に助けられファールにならず逆転の跳躍をすることができた。

結果として、これまでの自己ベストを大幅に更新することができたが優勝はあくまで結果論であり、有力選手の棄権や不調によるところが大きかった。今後この記録に満足せずに練習を重ねさらなる記録の向上を目指していきたい。

2位 坂本泰(4) 6m86 (+0.2)

風が回っていること、競技場の作りのために動画を見ても流れが分かりにくいことから、踏切足を合わせることに非常に難しい試合であった。1本目はファールに終わった。2,3本目はいずれも30~40cmほど手前で踏み切り、6m50cm台の記録しか残せなかったが、なんとかベスト8に進出。4,5本目はいずれも7mを超えるような跳躍であったが、助走の動きが良くなりファール。最終6本目では少し合わせにいつてしまったが、6m86で他大学の選手を抜き、2位で競技終了。記録はあまり良くはなかったが、対校戦として得点を稼ぐことはできた。

5位 早藤海音(1) 6m59 (-0.9)

今回は三段跳で怪我をしまい、思うような跳躍ができませんでした。来年は怪我をせずリベンジしたいです。

男子 棒高跳決勝

1位 島村惟葵(3) 4m80

二連覇。中助走で4m30を2本目でクリアし、1位を決めた。全カレB標準を狙うため全助走の足合わせをしつつ4m80を3本目でクリア。B標準の5m10にあげポールもより硬いものにしたものの、使いこなせず失敗。来年は大会記録を更新したい。

6位 吉田悠人(4) 3m60

余裕を持って3m40からスタート。3m60の2回目で足が攀るも3回目でクリア。3m80は足が攀った影響もあり3回跳べず、そのまま競技終了。

7位 倉部彰士(3) 3m40

実力からして得点を取ることを目標としていた。緊張から本来の力を出し切れず、得点に絡めず終わってしまった。練習の跳躍の再現性を高めていきたい。



連覇した島村(3)の跳躍

男子 三段跳び決勝

5 位 久保田大聖(4) 13m98 (-0.7)

1 本目:F

足はぴったりだったが、ステップで前のめりになりすぎてジャンプを跳べなかった。

2 本目:13m98

手拍子をもらい助走スピードに乗ってホップステップジャンプとスピード感のあるいい跳躍が出来た。ただ、板のかなり手前で踏み切ったのもったいないことをした。

3 本目:13m63

ステップで欲張りすぎて潰れた。

4 本目:13m98

少しジャンプで潰れたが抜け感とはね感を両立したいい跳躍ができた。これも板に乗らなかった。

5 本目:13m96

ステップで上に跳ねすぎて減速してしまい、ジャンプの距離が出なかった。

6 本目:F

疲労で助走もスピードに乗らず、最後まで跳びきれなかった。

7 位 早藤海音(1) 13m71 (-0.1)

今回は三段跳で怪我をしてしまい、思うような跳躍ができませんでした。来年は怪我をせずリベンジしたいです。

10 位 江尻鈴真(1) 13m59(-1.6)

踵を怪我しており、思った通りの跳躍が全くできず、全体としてかなり下手な動きだった。助走スピードも遅かった。

女子 砲丸投げ決勝

3 位 平谷めるも(3) 10m48

他の種目で忙しく、思うように練習は積めなかったが、合格点の投げができた。

6 位 五嶋理子(1) 9m08

自己ベストを更新できたことは素直に嬉しい。スタート位置を下げたことが良かったと思う。一方で、投擲のタイミングやパワーなどに課題があることを痛感した。練習を積んでいきたい。

女子 槍投げ決勝

6 位 平谷めるも(3) 30m88

他の種目で忙しく、ほとんど練習はできなかったが、それなりに良い投げが出来た。

8 位 五嶋理子(1) 22m30

できることを出せたと思うが、残念な結果に終わった。下半身の力をうまく伝えられるようになりたい。これは、他の投擲種目にもつながるだろう。

女子 走高跳決勝

6 位 原田萌々子(4) 1m45

大会に向けて段々と調子が上がっていたこと、また暑さ対策もしっかり行っていたことから、表彰台を目指して試合に臨んだ。助走は走れていたが、公式練習の跳躍から体の回転が足りていなかった。試合は1m45 からスタート。1m45 を 2 回目で成功。1m50 は高さが出た跳躍もあったが、跳びきることができなかった。結果 1m45 で 6 位だった。順位も記録も到底満足できるものではなく非常に悔しかった。また、チームに得点という形で貢献できなかったことも大きな反省点である。

NM 末岡由衣(2)

初めて高跳びに出場した。練習でも120cmを確実に跳べるか微妙なくらいで案の定本番ではクリアすることができなかった。2週間でつめ込むように練習して出場したので、これからは足のケアをちゃんとしてつ高跳びの練習を続けていきたい。



原田 (4)の跳躍

女子 走幅跳決勝

6位 大槻真優(1) 4m91 (+0.8)

約4年ぶりに陸上を始めてから最初の試合が七大戦だったので本番前はとても緊張していたが、試技中は落ち着いて6本跳ぶことができた。踏切板までの距離感がずれてしまっていて、練習でもファールばかりしていたことを直せないまま本番を迎えたため1本目でファールをし、それが後の思い切った踏切のできない跳躍に繋がってしまったと思う。また、暑さに負けて体調を崩してしまったことも管理が不足していたと反省している。今後はブランクからの回復に努め、走力や体力など陸上の基礎を鍛えてから専門練習を積み、シーズン後半に良い記録が出せるようにしたい。

10位 古閑詩季(1) 4m42 (+0.6)

3本共に助走の重心が低く、スピードを踏切に活かさない跳躍だった。3本の中で殆ど修正ができず、全て良くなかった。5mを跳ぶことを意識しすぎていて、自分の跳躍ができなかったことが要因だと思う。PBに近い記録を残せていればtop8に残れていたため残念な結果になった。今後はいつもの自分の動きができているのかを常に意識に入れて跳びたい。



▲集合写真



二日間暑い中選手をサポートしてくれたマネさんたち
(※この写真以外にも数名います！)

◎自己ベスト更新者一覧 (7/1-7/31)

男子 100m

齋藤晃汰(4)10"98 (-0.7)宮城県選(7/6)

男子 1500m

日引英舜(2)4'00"38 宮城県選(7/6)

相澤啓太(M1)4'03"78 宮城県選 (7/6)

男子 5000m

向田祐翔(4)14'54"67 福島県選 (7/11)

男子 110mH

金岡有途(3)16"19(-0.8)秋田県選(7/6)

岡田幹太(4)14"97(-1.7)宮城県選(7/6)

鍵山弘樹(1)15"16(+0.6)栃木県選 (7/7)

男子 3000SC

杉山大輔(3)9'27"94 七大戦 (7/28)

男子 5000mW

田中伊織(3)23'00"11 青森県選 (7/5)

男子走幅跳

小南慧馬(2)6m96(-0.7)七大戦 (7/28)

坂元泰(4)6m86(+0.2)七大戦 (7/28)

根本陽大(2)5m68(-0.4)七大 OP(7/27)

男子棒高跳

島村惟葵(3)5m00 茨城県選(7/5)

男子 4×400mR

斉藤宥哉(M1)-菅野涼太(3)-千葉琢巳(6)-佐藤千仁(M2)

3'11"71 (宮城県選)

部記録更新！！

男子砲丸投

鍵山弘樹(1)11m04 七大戦 (7/27)

女子 100m

白鳥名花(1)12"12 七大戦 (7/28)

大会新！！

女子 800m

菅田理乃(4)2'08"01

ホクレンディスタンス士別大会 (7/13)

部記録更新!!

女子砲丸投

五嶋理子(1)9m08 七大戦 (7/27)

女子走幅跳

末岡由衣(2)4m51(+0.6)七大戦 OP(7/27)

大槻真優(1)4m91(+0.8)七大戦(7/28)

◎今後の予定

<9月>

- ・19-22日 第93回日本学生陸上競技対校選手権大会(神奈川・川崎市等々力陸上競技場)
- ・28-30日 第37回国公立27大学対校陸上競技大会(茨城・笠松運動公園陸上競技場)
- ・29日 秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会兼第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会(名取市サイクリングスポーツセンター)

<10月>

- ・27日 第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市)

<11月>

- ・3日 秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知県名古屋市~三重県伊勢市)

◎編集後記

今号から OBOG 通信担当になりました、宮下尚丈と申します。不慣れな部分もあると思いますが、OB・OGの皆様に東北大学陸上競技部の活躍を余すことなく伝えていきたいと思ひます。1年間どうぞよろしくお願い致します。

今回の七大戦は、男子総合2位、女子総合3位という惜しい結果となりました。しかし、蓋を開けてみれば、下級生の活躍が目立っており、来年の七大戦は期待できるような結果となりました。また、今年は全体応援にも力を入れ、部員一丸となって選手を応援し、よい雰囲気の中七大戦を終えることができました。今後は、主将・倉部彰土、女子主将・加賀谷美結の新体制のもと、全日予選会や国公立27大戦といった各種競技会に向けて練習に励んでいきます。新体制で戦っていく東北大学の選手たちの活躍にご期待ください。

文責 OBOG 通信担当 : 宮下尚丈 編集補助 : 大村将伸、安藤彩澄

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp